

千葉市感染症発生動向調査情報

2016年 第43週 (10/24-10/30) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		43週	42週	41週	40週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数	小児科	18	18	18	16
	眼科	5	5	5	4
	インフルエンザ*	28	28	28	26
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感 染 症 名	千		葉		市		千葉県
		注意報	10/24-10/30	10/17-10/23	10/10-10/16	10/3-10/9	10/17-10/23	
			43週	42週	41週	40週	42週	
小児科	RSウイルス感染症		9 0.50	12 0.67	10 0.56	27 1.69	160 1.19	
	咽頭結膜熱		0 0.00	0 0.00	1 0.06	0 0.00	11 0.08	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	30 1.67	21 1.17	22 1.22	12 0.75	353 2.61	
	感染性胃腸炎	○	116 6.44	89 4.94	75 4.17	76 4.75	446 3.30	
	水痘		4 0.22	5 0.28	0 0.00	3 0.19	33 0.24	
	手足口病		41 2.28	32 1.78	27 1.50	39 2.44	340 2.52	
	伝染性紅斑		2 0.11	2 0.11	2 0.11	2 0.13	9 0.07	
	突発性発しん		9 0.50	15 0.83	4 0.22	7 0.44	63 0.47	
	百日咳		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	6 0.04	
	ヘルパンギーナ		4 0.22	7 0.39	7 0.39	20 1.25	44 0.33	
	流行性耳下腺炎		6 0.33	8 0.44	2 0.11	5 0.31	100 0.74	
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフル エンザを除く)		6 0.21	9 0.32	1 0.04	2 0.08	106 0.50	
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	
	流行性角結膜炎		2 0.40	3 0.60	1 0.20	3 0.75	18 0.53	
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	
	マイコプラズマ肺炎		3 3.00	2 2.00	2 2.00	2 2.00	16 1.78	
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(6件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	60歳代	病原体遺伝子の検出	A型肝炎	男性	20歳代	血清IgM抗体の検出
結核	男性	70歳代	IGRA検査等	アメーバ赤痢	男性	40歳代	病原体の検出
結核	女性	40歳代	IGRA検査等	急性脳炎	女性	10歳未満	先行感染症症状

・第43週は、結核3件(202)、A型肝炎1件(5)、アメーバ赤痢1件(7)、急性脳炎1件(26)の報告があった。

※ ()内は2016年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第43週のコメント

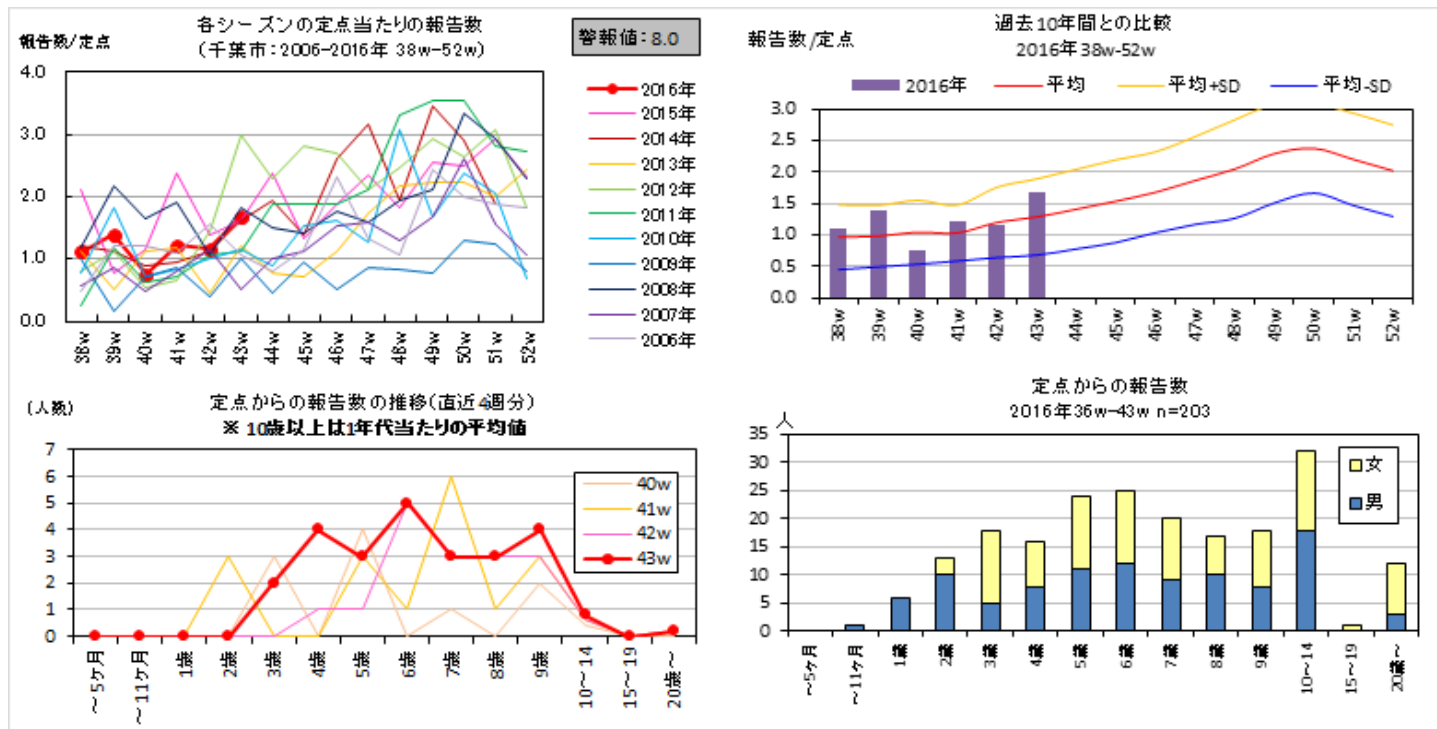
＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞前週より増加し1.67となった。過去10年の同時期と比べると多め。

＜感染性胃腸炎＞前週より増加し6.44となった。過去10年の同時期と比べると最多。

■ トピック ■

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

全国レベルの第42週は、過去9年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、鳥取県、山形県、愛媛県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより多くなっています。千葉市の第43週は前週より増加し1.67となり、過去10年の同時期と比べると多めとなっています。区別の発生状況は、緑区(3.75/定点)で最多となっており、同区の4歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2016年第36週から第43週までの累積報告数(n=203)によると、性別では男性が49.8%(101名)、女性が50.2%(102名)で、年齢階級別では10歳代前半が最も多く、一年代当たりでは6歳(12.3%:25名)、5歳(11.8%:24名)、7歳(9.9%:20名)の順に多くなっています。



<感染性胃腸炎>

全国レベルの第42週は過去9年の同時期と比べると最多となっています。都道府県別では、島根県、広島県、熊本県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると少なめとなっています。千葉市の第43週は、前週より増加し6.44となりました。過去10年の同時期と比べると最多のままとなっています。例年の発生動向によると、今後は増加していく傾向にあります。区別の発生状況は、若葉区(13.0/定点)で最多となっており、同区の6~11か月で最も多く発生報告がありました。若葉区は昨年から継続して高い水準のまま推移しています。今シーズンである2016年第36週から第43週までの累積報告数(n=645)によると、性別では男性が57.5%(371名)、女性が42.5%(274名)で、年齢階級別では1歳(17.4%:112名)、4歳(12.1%:78名)、6~11か月(10.9%:70名)の順に多くなっています。

